



電気・情報に関する体験講座の実施 (プログラミング体験教室 スマホアプリを作ろうの会)

代表者 | 菅原 一孔【教授】(工学部)、中川 匡夫【教授】(工学部)
共同実施者 | 藪田 義人【助教】(工学部)
連携先 | 鳥取大学

目的

若者の科学(工学)離れが叫ばれているが、子供のなりたい職業に関するアンケートでは「学者・博士」が上位に位置するなど、幼少時の科学に対するあこがれは強い。そのため、幼少期から継続的に科学に触れる機会を提供することで、科学を身近なものとして認識してもらうことを目的とする。

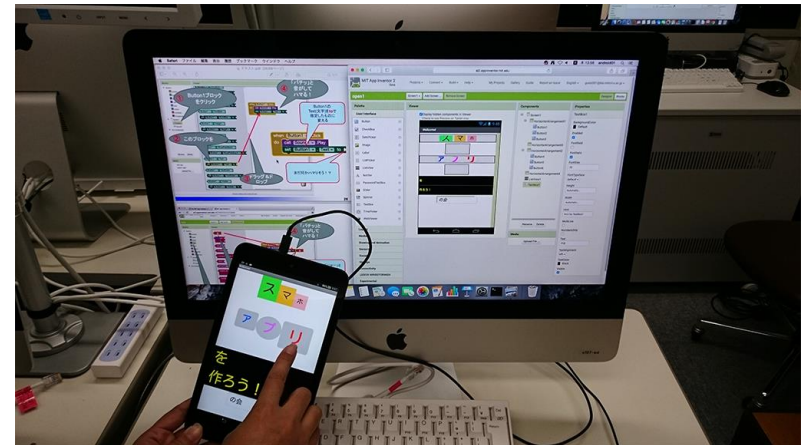
取組み

スマートフォンのプログラム作成講座を実施する。小中高生が科学の実践の場として鳥取大学を認識することで、将来的な受験生確保に繋がる。実際、講座の受講を通じて情報処理技術に関心を持つ中高生が多く、将来、情報系の勉強をするきっかけとなっている。さらに、開催案内を県下の小中高などに配布することで、地域に対して本学の活発な取り組みをアピールすることにも繋がっている。

10月の鳥取大学大学祭期間中に実施する予定であった。

成果

開催を予定していた会場(本学, 工学部1棟1階計算機実習室)がコロナ禍の影響により三密を回避することが困難であると判断したため、実施を中止した(右側に配した2枚の図は作成したテキストに使用していたもの)。



当学科で作っているサービス・スマホアプリ

□ バスネット(バス, 鉄道乗換案内) <http://ikisaki.jp>

□ GPS搭載スマートフォンを車載器として利用することで、低コストな設置、運用を実現



今後の展開

コロナ禍が収束した暁には、再びスマートフォンのプログラム作成講座を開催する予定です。生活必需品となりつつあるスマートフォン用のアプリを手軽に自作できることを周知することで、プログラミングを通して工学への興味を持ってもらいたい。

地域へのメッセージ

①本研究成果の活用のヒント 本学科の研究成果として公開されているバスネット(<http://ikisaki.jp>)では各所に設置された端末で利用できる他にスマートフォンを通して利用できるようになっています。

②代表者は「こんなことやっています」ロボットの視覚機能となるような、カメラ画像を使った距離計測や物体検出の研究を行っています。